

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ9月-

～「初秋の自然観察とお茶会」～

9月30日(日)、初秋を楽しみながら「お茶会」を実施しました。例年通り、本格的な和菓子付きのお茶会です。琴の演奏付きです。自然観察会では秋の野草を摘み、一輪挿しにして楽しみました。

参加された皆様は、奥山の秋の静けさを満喫されたようです。



へ「和菓子」

へ「お茶会」

秋の遠足シーズン

～元気いっぱいの子供たち～

10月16日、一迫幼稚園が来館しました。クラフトコーナーで自分の顔をテーマにブローチを作ったり、園内の散策などしました。秋の日差しを受けて、楽しい思い出を作りました。楽しかったので、また来るそうです。お友達と一緒にまた来てネ・・・



＜芝生でお弁当タイム＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大友さんのコーナーです

～秋本番のことり～

①2年ぶりに見たクマタカです。心配でしたがその雄姿にしばし見とれました。

②ヒヨドリの幼鳥が足音に驚いて飛び出しました。こわごわ振りかえったところです。

③カルガモの若鳥です。5羽いましたが親鳥はいません。草木川の流域で子育てをしたのでしょうか。(大友)



①クマタカ



②ヒヨドリ幼鳥



③カルガモ若鳥

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

～カマキリを手玉に～

今時期になるとカマキリ(主にハラビロカマキリ)の尻から出ている虫を見かける。名前はハリガネムシ(針金虫)。のたうち回るような動きと姿は一見して寄生虫だと分かる。

この虫の一生は、①水中で雄雌が交尾・産卵し、孵化した幼虫がカゲロウなどの水生昆虫に食べられて寄生する。②寄生された水生昆虫が、羽化してカマキリに食べられて寄生する。③寄生したハリガネムシはカマキリの脳に何らかの物質を注入し、操ってカマキリを水の中に誘い込む。④ハリガネムシはカマキリの尻から出て交尾・産卵をする。を繰り返す。

こわもてのカマキリを利用して命をつなごうとするハリガネムシはなんてヤツだ。(は)



＜ハラビロカマキリ＞



＜ハリガネムシ＞

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

「はがき」に使える葉?? ～タラヨウ(モチノキ科)～

「タラヨウ」は、暖地性の常緑高木で雌雄異株です。晩秋に赤く熟す実は雌株につきます。よくお寺や神社に植えられていて、県内では塩釜神社の巨木が有名です。

葉は「タイサンボク」の葉に似ていて光沢があり、厚くて細長く、長さは20cm位にもなります。葉の裏に傷をつけると黒くなって残ることから、先のとがったもので字や絵を書くことができ、古い時代には、この性質を利用して占いや、経文を写すのに利用されていたという説があります。寺社に「タラヨウ」がよく植えられている理由となっています。

また、文字が書けることから、戦国時代には「はがき」の代用品として利用されたという話もあります。今でも「はがき」のことを葉書と呼びますが、そのいわれとなっていて、現在、「郵便局の木」に指定されていて、各地の郵便局にも植えられています。さて、タラヨウの葉が現代でも「はがき」として通用するのかという話ですが、葉の裏に宛先を書いて、切手を貼り投函します・・・無事、到達することを祈りましょう・・・。(千葉)



＜「タラヨウ」の葉＞

科学館情報

きのこ写真展開催中

科学館では毎年、「きのこ観察会」のイベントに合わせて、きのこの写真を展示しています。写真は自然観察会の講師でお馴染みのHさんの提供によるものです。

ここで「こもれびの森」の「きのこ」をたくさん見ることができます。一風変わった「きのこ」もありますので、是非ご来館の上ご覧下さい。